

こちら特報部

熊本県民を四十二年間対立させてきた川の川辺川ダム計画に、突き付け一躍、全国的な評価を高めた蒲島博夫知事。しかし、地元の評判はいまひとつ。全国初となるはずだった県営ダムの撤去を中止し、必要性に大きな疑問符が付けられた県営ダム建設も進んでいる。同じダムで、なぜこんなにも対応が違つか。現地を訪ねた。

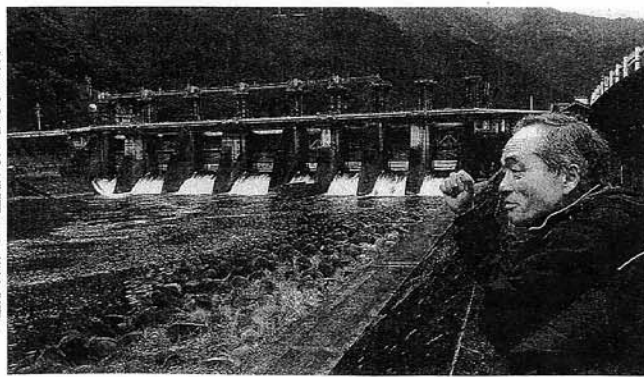


熊本の川辺川ダム阻止 蒲島知事 その後の「決断」

熊本県南部を流れる日給代の平山信夫さん(80)は、八代海を流るる川、川辺川などの水を築きながら、八代海に注ぎ、そのなしい、ウナギはダム完了後、八代市に成育を成前の一万分の一。オレの年齢だと、かつての一九五五年から水力発電ダムとして稼働し、高さんといえるようにもさ三十五万、最大出力は一万八千二百、二〇〇二、当時の潮谷孝子知事、蒲島知事は昨年九月、事とは老朽化などを理由、県議会で「球磨川そのも由に撤去を決め、来年に撤去が始まる予定だった。だが昨年四月、蒲島川辺川ダムに反対を表明知事が就任すると事態は一変。六月には撤去を凍結、十一月には存続が決定された。撤去費用が捻出できないというのだ。「知事は球磨川が大事なの、カネが大事なのか、よかららん」問題の撤去費用は当初同市に住む球磨川漁協 六十億円と見込まれた



荒瀬 「撤去費高い」と一転存続



撤去されたはずだった荒瀬ダム。長年、球磨川とともに生きてきた平山信夫さんは蒲島知事の存続判断に困惑を隠せない。熊本県八代市で

が、県は六月に七十二億を含め改修・存続費用は円、十一月には九十一億八十七億円。撤去と天差円になることが判明した。蒲島知事は「荒瀬ダムと発表した。工期が五年は十六億円と少ない。存から六年に延びたり、護続すれば、発電した電力岸の安全確保に追加対策を、これらも毎年一億円が必要となったりしたの、程度で九州電力に売れるが主な要因だ。一方、発電設備の更新、内部留保金があるが、撤去には三十一億円しか充てられないという。蒲島知事は「荒瀬ダム撤去を求める民意」に配慮しつつ、「財政再建団体への転落は絶対避けなければならぬ」という大きな民意がある」として、県財政への影響が少ない存続を選んだ。

住民落胆「球磨川は宝」本心か

「ダムがなくなれば、ダムを管理する職員は不要になる。彼らは職員を並べて費用をふり上げて県民をあきらめさせたいのでは。知事もこれを信じちゃったのかも」。「美しい球磨川を守る市民の会」代表の水尻さん(80)も知事の姿勢を批判する。「知事は予算はゼロベースで見直すと言言し、同じ流域の川辺川ダムにも反対するのと同じで荒瀬ダムは存続なの、球磨川は宝」が本心なら、あのダム、費用で撤去せよ」

県営ならダムOK?

県営ダムをめぐって対立は、八代海を流るる川、川辺川などの水を築きながら、八代海に注ぎ、そのなしい、ウナギはダム完了後、八代市に成育を成前の一万分の一。オレの年齢だと、かつての一九五五年から水力発電ダムとして稼働し、高さんといえるようにもさ三十五万、最大出力は一万八千二百、二〇〇二、当時の潮谷孝子知事、蒲島知事は昨年九月、事とは老朽化などを理由、県議会で「球磨川そのも由に撤去を決め、来年に撤去が始まる予定だった。だが昨年四月、蒲島川辺川ダムに反対を表明知事が就任すると事態は一変。六月には撤去を凍結、十一月には存続が決定された。撤去費用が捻出できないというのだ。「知事は球磨川が大事なの、カネが大事なのか、よかららん」問題の撤去費用は当初同市に住む球磨川漁協 六十億円と見込まれた

地元不要論でも推進・路木



「建設費90億円を『荒瀬』撤去に」

国が堤防建設予定地に数多く残した捨て石は、干潮時に姿を見せるなど潮流を遮り、水質を悪化させている。溝内で漁業をする木浦秀豊さん(80)は「干拓事業で長年苦しまされ、お前はダム。豊かな養分を含む川砂をせき止め、海の生態系を崩す。羊角灣を荒らすのはいいかげんにしてくれ」。溝内で真珠養殖業を営む松本善吉さん(80)は、蒲島知事に決断を迫り「蒲島知事は決断を迫る必要はない。あの治水対策が目的」と建設費の必要性を強調する。

被害があったかどうかは、継続中のため、県公共事業にも資料を廃棄して不明。業再評価監視委員会が「だ」と説明。記述はダム、年秋、建設の是非を審議したが、結果は「継続」。治水対策が目的」と建設費の必要性を強調する。

治水効果疑問「海の生態系も崩す」

治水対策が目的」と建設費の必要性を強調する。